

(福)おうみ福祉会

おうみ作業所

障がいのある人が社会活動に積極的に参加できる社会を実現するための支援に「生活介護」と「就労継続支援B型」があります。今回はそれぞれの支援を行う市内の事業所を紹介いたします。

問 障がい福祉課 TEL (31) 3711・FAX (31) 3738

お問い合わせ
電話 (36)7860
住所 〒523-0058
加茂町 3819-5

ホームページは
こちらから



岡山小学校のすぐそばに構える「おうみ作業所」。ここでは生活介護事業を行っており、利用者と職員あわせて70人以上が働いています。利用者のことを「仲間」と呼び、3つの理念を掲げています。今回はこの理念に沿って、施設長の野村さんと支援員の大屋さんに話を伺いました。

理念1

おうみは家族、みんなの
願いをかなえる場所

おうみ作業所は1987年、おうみ共同作業所として船木町に設立。その後、2002年に現在の加茂町に移転し、今年20周年を迎えました。仲間の願いを真ん中に置くことを大切に、家族や職員の願いもかなえられる作業所にしていきたいと考えています。仲間の仕事は、せんべいの製造や、アルミ缶・銅線のリサイクル事業など、重い障がいがあっても、それぞれにあった仕事に取り組んでもらえるよう支援しています。

生活介護事業とは？

障がい者支援施設などで、入浴や排せつ、食事などの介護が常に必要な人に、その補助や生活の相談を行い、創作的活動や軽作業などの機会を提供したり援助を行ったりする福祉サービス。

理念2

人をまるごと大切に、
一人のためにやってみる

「仲間の中には、自分の気持ちや不安をうまく言葉にできない人が多く、今何が必要か、ご本人はどう思っているのか、常に考える必要があります」と野村さん。「人をまるごと」は仲間の障がい特性だけでなく、その人の発達・生活・人格などを含めてニーズをとらえ、願いをくみ取ることで考えています。仲間の願いを職員同士で話し合う、複数の視点で大切にしながら、気づきを気軽につぶやける仕掛けを作っています。



インタビューに答える
野村真愛 施設長

理念3

みんなのハートに
火をともし作業所

おうみ作業所では、日ごろの事業のほか、長命寺の清掃活動や特別養護老人ホーム「水荃の里」の清掃活動、苗箱洗いやト口箱洗いなど、地域に根ざした活動も行っています。こうした取り組みをする中で、地域の人から「ありがとう」や「頑張ってるね」などと声をかけてもらえることが励みになっています。

今後、第2作業所として「きみいろ」を建設し、その一角にはカフェスペースを設ける予定です。野村さんは「どんな人でも気軽に来られる場所にして、日ごろから地域の人と交流したいです。また、マルシェなどを通じて仲間たちや作業所の魅力も地域に伝え、みんなのハートに火をともしたい」と笑顔で話していました。



支援員 大屋さんのとある一日(平日)



送迎



利用者の家などに車で迎えに行き、一緒に作業所に向かいます。

活動



5つの班に分かれて、日課の作業やその補助を行います。

ミーティング



1日の活動・日課の様子を職員のみinnで話し合います。

福祉の仕事に興味をもって、
障がい福祉の理解が進んでほしいです！



支援員 大屋沙輝 さん

2017年4月に入社し今年で6年目。普段は下請け作業班に所属し、組み立て作業や清掃活動などを行っています。



利用者さんにお話を伺いました



山田栄子さん

「職員も利用者もみんな優しく、安心して作業ができます」と笑顔で答えてくれた山田さん。自分に合った作業量や道具を職員が考えてくれるため無理なく続けられています。

「1から説明するのが大変な病気なので、皆さんが理解してくれるのがとてもうれしいです」と話します。普段は、テレビや動画、旅行の話などを気兼ねなくしています。また、月1回のレクリエーションも楽しみで、普段は食べられないさまざまなお弁当が味わえるそうです。

ひがしまえさだのり 東前定憲さんから

新しい作業でも、職員の皆さんが工夫してくれるので取り組みやすいです。
静かな環境で作業もしやすく、これからも続けていきたいです。

さらに
風通しの良い作業所に

「精神障がいには、他の障がいよりも見えて気づきにくく、理解しづらいです」と松川さん。いろいろな人に作業所を見てもらい、精神障がいを理解してもらいたいと考えています。

また、「今年、民生委員10人にモコハウスの見学と、手作り商品を手に取っていただきました。実際に見て知ってもらうことが一番の理解につながると思います」と、風通しの良い作業所のために、地域での活動や見学の受け入れ活動に意欲を示していました。

モコハウス手作り 冬のあったかグッズ



ポケット付きひざ掛け

リボン型マフラー



スカート型ひざ掛け

ふくふくフェスタおうみはちまんを開催！ 今回紹介した2つの事業所も出店します！

障がいに対する理解や、交流を深めることを目的に「ふくふくフェスタおうみはちまん」を開催します。物販コーナーではおうみ作業所やモコハウスも出店します。ぜひ見に来てください！

日時 12月10日(土) 午前10時～
場所 ひまわり館

詳しくは、本紙20ページをご覧ください。

おうみ作業所



モコハウス



(福)きぼう モコハウス

お問い合わせ
電話 (32)1810
住所 〒523-0087
北津田町159

ホームページは
こちらから



2階建てから平屋へ 作業効率アップ

2003年から社会福祉法人きぼうの傘下で運営されていた2つの事業所が、2013年に統合され、現在の「モコハウス」に名称変更をしました。

今までは島町にありましたが、去年の3月に北津田町に移転しました。「平屋になり、敷地面積も広くなったので、以前よりも作業がしやすくなりました。利用者の皆さんも喜んでいました」と松川さん。

地元の夏祭りや文化祭で、手作りのマフラーやネックウォーマーを販売する「モコハウス」。就労継続支援B型として、普段は水道部品などの下請けを行い、昆布の袋詰めなども行います。そんなモコハウスで、所長の松川さんや利用者の山田さんと東前さんからお話を伺いました。



インタビューに答える
松川一美 所長

「一人ひとりにあった 支援」を考える

就労継続支援 B型とは？

障がいや難病のある人のうち、年齢や心身の状態などから雇用されることが困難な人が軽作業などの就労支援訓練を行い、工賃をもらう形の福祉サービス。



治具

加工や組み立ての際に、作業を手助けする器具。モコハウスでは、作業支援員が利用者にあったものを作りしています。

モコハウスでは、福祉専門職が2人と作業支援員が6人います。「どの職員も利用者一人ひとりを見てくれているため、小さい変化にすぐ気付いてくれます」と松川さん。気軽に話せる雰囲気づくりを大切にしています。また、一人ひとりにあった治具を作っていて、さまざまな下請けの仕事も、スムーズに行うことができます。

さらに「利用者が発する言葉の背景を理解して、表面的な支援にならないように」と常に心がけています。雑談などを通して利用者を理解していき、本当の意味での「支援」を行っているからこそ、職員も利用者もお互い信頼できるようです。